

るくおん通信

No. 144

発行日 2007年1月15日

発行 盲人情報文化センター録音製作係

聴いてわかる図書を作るために (第10回)

アクセントについて

久保 洋子

大 阪生まれ大阪育ちの私たちにとって「共通語のアクセント」で読むというのは大変な努力のいることです。けれどもあきらめずに、アクセント辞典をひき続けていと、5～6冊、読み上げるうちには、誰でもほとんど正しく読めるようになるものです。現在、テレビ・ラジオなど、その気になれば共通語をきく機会はたくさんあります。日常、ラジオを聞いて気になった言葉のアクセントをたしかめてみたら、自分の方が正しかったというようなこともあります。読む立場ではあくまでも完璧をめざしてください。

では、校正する立場ではアクセントはどこまで上げたらいいいのか、これはむづかしい問題です。校正者が、読む時と同じように上げていたら、どういうことになるのでしょうか？

校正の基本は「利用者に原本が正しく伝わるかどうか」です。そして校正にまわって来た録音図書が、校正して訂正す

ることによって、今より良いものにならなければ何のための校正かわかりません。たくさん訂正した録音図書は、決してききやすいものにはならないことも知っておいていただきたいと思います。

一番大切なのは音声訳者がアクセントも含めて正しく読むことです。そして、誤読を正して利用者にとって、より正しくわかり易い図書に仕上げるための校正だということを忘れないことです。

本の内容がきちんと伝わるものについては今後のために校正表欄外に書くようにしましょう。

アクセントに自信がないと、どれを上げていいのか判断に迷われることもあると思います。そんな時は職員に相談してください。

よい校正者になるのも、よい音声訳者になるのと同じ位、努力がいることなのかもしれません。力を合わせて、よりよい録音図書を、より早く、より多く作って行きたいと願っています。

Q&Aコーナー

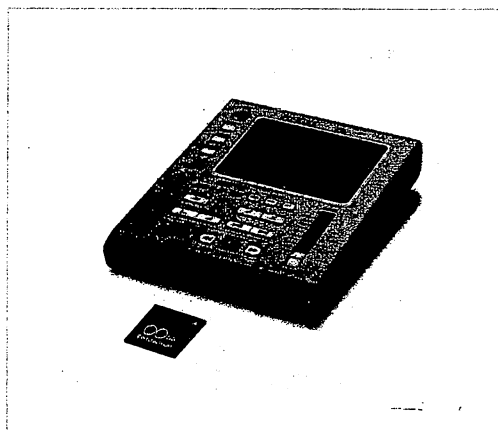
Q

近々録音図書専用の新しいデジタル録音機が発売されると聞きましたが詳しいことを教えてください。

A

デジタルの録音図書の専用録音機としては、OTARIが出している「MO DISUKU RECORDER DX-5」（定価10万円程度）がありましたが、この度、シナノケンシ株式会社より「デジタル録音機 DR-1」が今年7月に発売予定です。定価は42000円（税込み）の予定。録音形式はPCM（22.05KHz）とMP3（64Kbps、48Kbps、32Kbps）の両方が可能です。記録メディアはCFカードを使用します。操作はカセットデッキの感覚に近いのでパソコンが苦手な人も比較的使いやすいでしょう。ただし、録音したデータはそのままでは利用できませんので、一旦、パソコンに取り込んでデジタイズ編集をする必要があります。

この件についての問い合わせ先
シナノケンシ株式会社
第3開発営業部営業5課
〒110-0005 東京都台東区上野5-8-5
CP10ビル5F
電話03-5817-2425



Q

注の処理ですが、本文中に「注」が出てきたとき、「注」と読み、切りの良いところで「注」と言って「注」を読んでいます。時々、文章の終わりに「注」が付いている時は「注」といってすぐに読み始めるので、もう一度「注」というのはくどいので、1回で良いのではないのでしょうか。

A

「注」がよく出てくる文章で、その「注」が文章の途中や文章の終わりにあつたりと、いろいろある場合、最初に「チュウ」と言い添えるのは、“ここに「注」が付いています”という意味で、次の「チュウ」のコメントは、“今から「注」を読み始めます”というコメントになります。ですから、聴く側は最初の「注」で「注があるのだな」と聴きますし、後の「注」のコメントで今から注を読むのだとわかります。しかし、文章の終わりに「注」があるからと、「注」のコメントを1回しか入れずに「注」を読み始めると、聞き手は「注」

を読み始めたのか、本文を読んでいるのかの区別がつかず混乱します。文章の終わりか、途中かは読み手にははっきりわかっていますが聞き手はそう簡単にはわかりません。

ただし、「注」がすべて文章の終わりに付いている場合や、「注」が付いているところですべて「注」を読見込む場合は1回でも混乱しないかもしれません。しかし、聞き手が安心して聴けるのはやはり、その場で読む場合も、今から「注を読みますよ」という意味で、2回読む方が親切でしょう。1回目と2回目の「注」のコメントは、同じ調子にならないようにしましょう。

Q

パソコン録音をしています。マイクは「ヘッドホン付きマイク」で録音していますが、録音中にボコボコといった雑音が入るので困っています。何か雑音を減らす方法があれば教えてください。

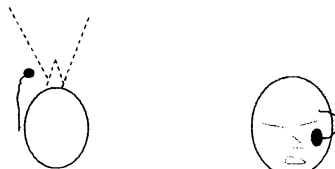
A

ヘッドホン付きマイクで録音する方も増えています。マイクと口との距離が近くなる分、録音ボリュームはスタンド式と比べて小さく絞れますので周りの雑音も小さくなります。

しかし、マイクが口元に近い分、吹かれノイズ「ボコッ」といった音や、あごが動く事でヘッドホンのコードなどが動いて雑音が発生するなどの問題が生じます。

これを防ぐ為には、マイクが直接、口の前にこないようにずらす必要があります。マイ

クの位置も口よりやや上にくるようにして直接息がかからないように注意しましょう。(図参照) また、ヘッドホンのコードも不用意にさわらないように注意してください。雑音の原因になります。



Q

PRSのソフトで録音しています。後追い録音ができないといわれていますが、何か改善はされたのでしょうか。

A

PRSProでは録音設定で、①「音声検知時」②「録音キー操作時」と選択することが事ができます。②「録音キー操作時」を選ぶと、録音キーを2回押せば、その時点から録音が始まります。校正後の訂正でも、後の消さない部分を一旦セクション分割してから、後追い録音して、その後でセクションの結合をすれば訂正作業も後追い録音感覚で行う事ができます。「パンチイン」録音は使いません。ただし、後追い録音といっても「間」は前のフレーズについていますので、録音キーを押すときは、確実に訂正するフレーズになって

から押さなくてはなりません。カセットデッキの感覚で間のところで録音状態にすると、訂正する必要な無い前のフレーズ(正しいところ)が消されてしまいます。これは録音設定でどちらを選んでも同じですので注意が必要です。①の「音声を検知時」を選ぶと、録音状態になっても、音声が出ないと録音はされませんので、あせらずゆっくり録音に入ることができます。ゆっくり録音に入っても間は前のフレーズについていますので不自然にはなりません。どちらを選ぶかは音訳者が選択してください。

録音製作係からのお知らせ

スタジオの月曜開館について

昨年9月より、試験的に録音製作部門のみですが、月曜日にも清水と林田が交代で出勤してスタジオを開けるようにしています。すでにデイジースタジオは月曜も開けていますので、盲人情報文化センターとしては月曜日は休館ですが、録音製作部門とデイジースタジオ部門は録音スタジオ

を開けています。

今のところ、月曜は主に週刊新潮の録音チームが使用していますが、蔵書録音のペアも徐々に増え始めています。月曜日のスタジオ録音も積極的にお願いします。

なお、今のところ月曜日は、録音スタジオのみの開館です。

4月より、初心者を対象にした音訳講習会を企画予定

今年、4月より原則、毎週月曜日に初心者を対象にした「音訳講習会」を企画します。講師は盲人情報文化センターのプライベートチームのアシスタントとして活動いただいています、安田知博さんです。

この講習会は定員10名程度で、3ヶ月間(全10回)の予定です。年に4期実施します。第1期4月～6月、2期は7月～9月、第3期は10月

～12月、第4期は1月～3月の予定です。

この講習を修了されても、盲人情報文化センターの音訳ボランティアの活動はできません。当センターの音訳ボランティアになるには、選考試験のある「音訳基礎講習会」を修了の上、「録音図書製作講習会」を修了していただくことになります。

詳しい要項は2月中旬に作成予定です。

4月より家庭録音チームの再編を進めていきます

4月より、家庭録音チームの再編を行います。現在、家庭録音チームは①24の瞳(木曜日) ②ポーコアポーコ(水曜日) ③はなみずき(水曜日) ④マトリョーシカ(火曜日)の4つのチームがあります。ここに、今年度修了予定の講習生(グループ名は未定・水曜日)が加わり5つのチームになります。毎年あらたなチームとして独立していましたが、今後は曜日単位にチーム化を進めていきます。水曜チームは「はなみずき」と「ポーコアポーコ」が合流し「水曜チーム」として再編します。それ以外のチームは新しい講習生が修了したら順次合流していきます。

今後は家庭録音チームは**共同製作**を積極的に進めていきます。図や表などの入っている作

品を共同製作で取り組むことで音声訳に関する研修をしていきます。現在、共同製作作品として進めているものは

「24の瞳」 → 『池上彰の社会科教室①～③』

「ポーコアポーコ」 → 『ただいま選書中』

「2006年講習会チーム」 → 『世界憲法論文選』

なお、4月より「バーチャルスタジオ」が立ち上がります。インターネットを介しての録音製作体制をすすめていきますので「スタジオ音訳チーム」、「家庭録音チーム」「校正チーム」「編集チーム」といった録音製作に携わるボランティア全体を対象にした研修会や交流会などを企画していきます。

カセットテープからのデジライズ図書作成(その7)

7.2 フレーズの編集(つづき)

(5) ページ設定

先頭ページは手動で入力([手動ページ]設定)し、これに続く連続したページは[自動ページ]設定する。また、途中、白紙ページの後の開始ページなども手動ページ入力する。

自動ページのページチェック(*)個所で1ページずつページ数が増加する。

【手動ページ】

①先頭ページに対応するフレーズを選択し、<Enter>キーを押して、[フレーズのプロパティ]画面を表示する。

図 ページ設定

セグ番号	レベル	見出し	フレーズ	長さ	ページ
1	1	LONESOME単人	3	00:00:13	
2	1	原本奥付	20	00:01:29	
3	1	著者紹介	9	00:00:39	
4	1	目次	46	00:04:37	
5	1	歌集	1	00:00:00	
6	2	十四万二千九百時間	462	00:37:39	
7	1	1B	649	00:42:41	
8	1	2A	592	00:44:26	

先頭ページに対応するフレーズを選択して<Enter>キーを押す

フレーズ	長さ	ポーズ	グル...	ページ	マーク	音声ファイル
1	5.7	2.6				a000001.mp3
2	7.3	1.7				a000001.mp3
3	8.2	2.3				a000001.mp3
4	8.0	2.3				a000001.mp3

②[フレーズのプロパティ]画面の[ページ]欄が選択されている状態で、上下キーを使用して「手動ページ」を選択する。

図 [フレーズのプロパティ]画面

フレーズのプロパティを設定してください。

ページ:

11

グループ:

マーク:

OK キャンセル

③<Tab>キーを押して欄を1つ進め、先頭ページ数(例:「11」)を入力し、[OK]ボタンをクリックしてページを確定する。

注:フレーズリストの[ページ]欄に括弧付き数字(例:(11))で表示されたページは手動で入力された確定ページであることを示し、更新されない。

【自動ページ】

④手動ページ(先頭ページ)に続くページの先頭フレーズを順次選択して<P>キーを押し、[フレーズリスト]の[ページ]欄にチェックマーク(*)を付ける。

(例:No.2 フレーズ、No.4 フレーズ、No.6 フレーズ)

⑤<Ctrl>+<L>キーを押して、ページ欄のチェックマークにページ数を割り振る(更新する)。

参考:<Ctrl>+<L>キーの代わりに[コントロール]メニューから[最新の情報に更新]を選択するか、または<F10>キーを押してもよい。

参考:間違えてページチェックしたときは、再度<P>キーを押すとキャンセルできる。

注:<P>キーでページチェックを付けたり外したりすることで、図書全体の自動ページ番号が更新(変更)されるので、章の始めなど区切りごとに「最新の情報に更新」を実行してページ数を確認するとよい。

図 ページチェック

手動入力で確定した先頭ページ 例:(11)ページ

フレーズ	長さ	ポーズ	グル...	ページ	マーク	音声ファイル
1	5.7	2.6		(11)		a000001.mp3
2	7.3	1.7				a000001.mp3
3	8.2	2.3				a000001.mp3
4	8.0	2.3			*	a000001.mp3
5	8.9	1.6			*	a000001.mp3
6	10.3	4.8			*	a000001.mp3

<P>キーを押してページチェック

図 確定、更新されたページ数

フレーズ	長さ	ポーズ	グル...	ページ	マーク	音声ファイル
1	5.7	2.6		(11)		a000001.mp3
2	7.3	1.7		12		a000001.mp3
3	8.2	2.3		13		a000001.mp3
4	8.0	2.3		14		a000001.mp3
5	8.9	1.6				a000001.mp3

<Ctrl>+<L>キーで
チェックマーク(*)をページ数に更新

(6)【グループチェック】

目次がない本文中の小項目、または図、表などの初めと終りを必要に応じてグループで区切る。

①フレーズを選択し、<G>キーを押す。

参考: PLEXTALK では<#>(または<* >)+<Tree>キーで前後のグループチェックしたフレーズに飛ぶことができる。

参考: 再度、<G>キーを押すと、グループチェックをキャンセルできる。

(7)【マークチェック】

読みミスなど後で作業が必要なフレーズなどを区別するため、その他必要に応じて適宜マーク欄にチェックする。

①フレーズを選択し<M>キーを押す。

参考: 再度、<M>キーを押すと、マークチェックをキャンセルできる。

図 [元に戻す]
ボタン

7.3 その他の処理**(1)【元に戻す】(アンドウ)**

誤って、セクションやフレーズを削除してしまっても慌てなくてよい。PRSでは誤って実行してしまった編集操作を元の状態に戻すことができる。

**①【元に戻す】ボタンをクリックして、編集操作を実行する前の状態に戻す。**

注: [元に戻す]ボタンを1回クリックする度に1操作ずつ、最大10回までの操作を元に戻すことができる。

注: 録音、DAISYインポート、音声インポート、音声エクスポート、テキストインポート、ビルドブック、CD書込みを実施するか、または、編集画面を一旦閉じてしまうと、それ以前の編集操作を元に戻すことができなくなるので注意。

8. ビルドブック

編集が終わったら、CD書込みを行う前にビルドブックを実施し、プロジェクトホルダー内のファイルを整理すると同時に、DAISY形式ファイル(NCCファイルとSMILファイル)を生成する。また、プレクストークなどのDAISY専用プレーヤで再生するために必要な discinfo.html ファイルも同時に作成(または更新)される。Discinfo.html ファイルは、次のCD書込みにおいて、プロジェクトフォルダーと共にCDに書き込まれる。

①【ビルドブック】ボタンをクリックする。

参考: [ツール]メニューから[ビルドブック]を選択してもよい。

図 ビルドブック

[ビルドブック]ボタンをクリック

**②【ビルドブック】画面が表示され、「ビルドブックを開始しますか?」と確認されるので、[開始]ボタンをクリックする。**

注: PCMで編集してきた場合には、ビルドブックによりセクション毎に音声データの再構築(整理・統合、未使用データ

の削除)が行われる。しかし、MP3の場合には、引用されている(その一部がどこかに使われている)音声ファイルは記録したときの状態で残り、音声データの再構築は行われない。

MP3の場合、ビルドブックを行っただけではセクション毎にファイルが再構築されないし、まだ不要な音声データも含んでいるので、オーディオCDプレーヤ(ただし、MP3対応)で順序良く再生することができない。しかし、デイジー図書の要件は満たしており、プレクストークやLpPlayerで再生し、デイジー校正をするのには全く問題ない。

(つづく)

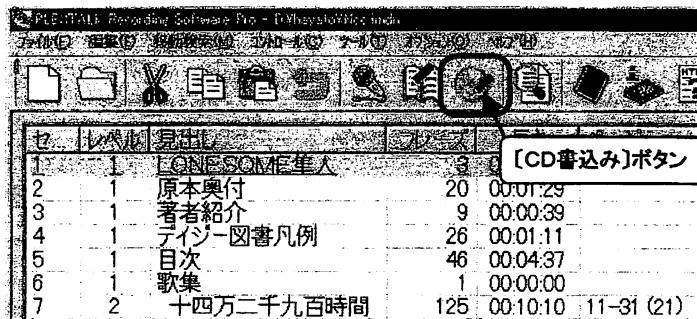
(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)

カセットテープからのデジータ図書作成(その8)

9. CD書き込み

ビルドブックが終わった編集画面からCD書き込みを行うことができる。デジータ校正用は原プロジェクト(例: hayato)を、また、校正に基づく修正・編集につづいて音声エクスポートを行った最終プロジェクト(例: hayatoA)もビルドブックを行った後、編集画面からCD書き込みを行う。

図 ビルドブック後の編集画面



①まず、CDドライブにCD-Rディスクを装着した後、[CD書き込み]ボタンをクリックする。

注:CD-Rディスクが装着されていないと、「CDメディアがありません」とエラーメッセージが出る。

②[CD書き込み設定]画面が表示されるので、以下の各項目を設定した後、[OK]ボタンをクリックする。

[書き込み速度]:CD-Rドライブが対応している書き込み速度を選択する。(例:8倍速)

[作成CDの種類]:「マスター用」を選択する。

注:「配布用」だと、PRSで直接CDを開けなくなる。

[最後のセッション情報]:「無効」を選択する。

参考:デフォルトの「有効」にしておけば、続けて書き込むことによりマルチタイトルCDを作成できる。

[PLEXTALK Portable Recorderによる編集]:

「なし」を選択する。

図 [CD書き込み設定]画面

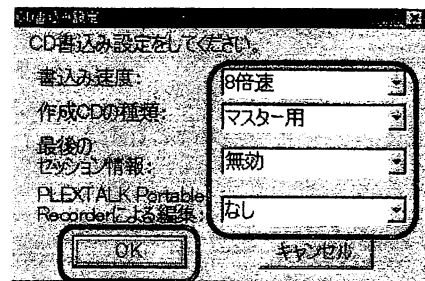
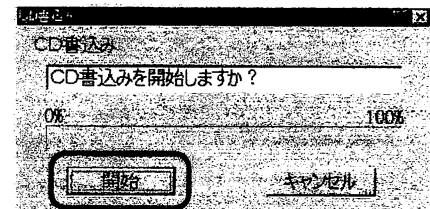


図 [CD書き込み]画面

③[CD書き込み]画面が表示され、「CD書き込みを開始しますか？」と確認されるので、[開始]ボタンをクリックする。

以後、[CD書き込み]画面に書き込み経過が表示された後、CD書き込み完了。

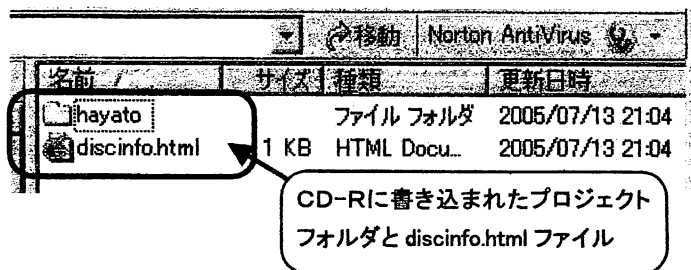


④プレクストークに装着して、正常に再生するか確認する。

参考:CD-Rにはビルドブック後のプロジェクトフォルダ(例: hayato)と、ビルドブックにより更新された discinfo.html ファイルの2つが書き込まれている。

図 CD-Rに書き込まれた内容

注:パソコンによっては編集画面からCD書き込みを行うと、エラーメッセージ(例:「不明なエラーです」など)が出て、書き込みできないものがある。このような場合には、パソコンにインストールされている専用のCD書き込みソフト(例:B's Recorder など)を用い、ビルドブックにより更新されたプロジェクトフォルダと discinfo.html ファイルをCD-Rに書き込めばよい。



10. 音声エクスポート

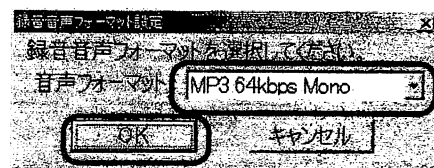
DAISY校正に基づく修正・編集が完了し、ビルドブックが終わったら、いよいよ最終仕上げの音声エクスポートを実施する。音声エクスポートではテープの枠アナなどの不要な音声データをすべて削除し、必要に応じて音声フォーマットの変換を行うと同時に、セクション毎に音声ファイルが再構築される。

音声エクスポートが終了したら、ビルドブックを実施した後、CD書き込みを行えばデジタイズ図書の完成である。

(1) [ツール]メニューから[音声エクスポート]を選択する。

図 [録音音声フォーマット設定]画面

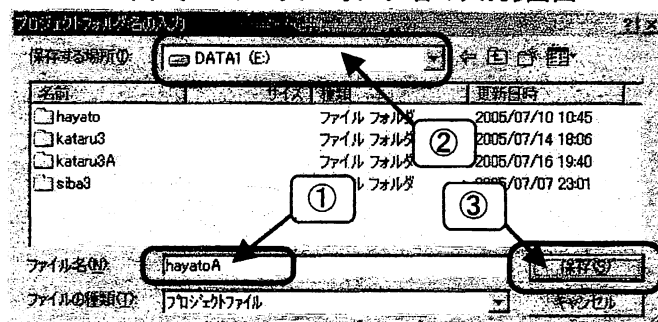
(2) [録音音声フォーマット設定]画面が表示されるので、音声フォーマット(例:「MP3(64kbps、Mono)」)を選択する。



参考:PCMで編集してきた場合には、CD書き込みを行う為にMP3に圧縮する必要がある。逆に、デジタイズからテープを作成する場合など、目的によってはエクスポートでMP3をPCMに変換する場合もある。

図 [プロジェクトフォルダ名の入力]画面

(3) [プロジェクトフォルダ名の入力]画面が表示されるので、



① [ファイル名]欄に新しいプロジェクト名(例:hayatoA)を入力する。

参考:原プロジェクト名の後ろに A、B 等を付けるとよい。

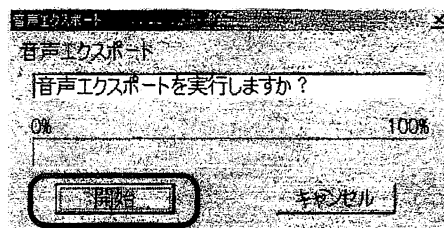
② [保存する場所]欄は本シリーズ(その2)3. 3「新規作成時に開くフォルダ」で指定したドライブ(例:Eドライブ)またはフォルダであることを確認したら[保存]ボタンをクリックする。

注:「新規作成時に開くフォルダ」の指定をしていない場合には、デフォルトで原プロジェクトホルダ(例:hayato)が保存する場所として指定されているので、必ず変更すること。

③ [保存] ボタンをクリックする。

図 [音声エクスポート]画面

(4) [確認]画面が表示され、「ここに、フォルダ〇〇を作成して、図書を作成しますか?」と確認されるので、[OK]ボタンをクリックする。



(5) [音声エクスポート]画面が表示され、「音声エクスポートを実行しますか?」と再度確認されるので、[開始]ボタンをクリックする。

以後、エクスポートの進行状況が [音声エクスポート] 画面に、表示される。

(6) エクスポートが完了すると、「エクスポートしたプロジェクトを開きますか?」と確認されるので、[OK]ボタンをクリックしてエクスポート完了。

注:原本のボリューム(時間)にもよるが、音声エクスポートには短い場合でも1時間、長い場合には3~4時間必要な場合もあるので、パソコンがハングアップしたのではないかと慌てないこと。

参考:音声エクスポートにより、第1セクションから順番に音声ファイルが再構築されるので、ビルドブック後CD書き込みを行えば、プレクストークで再生できるのはもちろん、一般のオーディオCDプレーヤ(ただし、MP3対応)でも再生できる。この場合、PRSの各セクションはCDに収録された曲目に対応する。

(つづく)

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)